

こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blogです

アーカイブ: 2009年10月

2009/10/30

🕒 21:00:45, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 526 

詩の歳時記-339 「柿」



一つづつ灯を消すごとく柿をもぐ

松本由美子

明け方の空に梯子をかける
夕べの灯りを消すように
一つづつ柿をもいでゆく
そして
天の神様に一つだけ置いてゆきます。

• [編集](#)

2009/10/28

🕒 15:38:35, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 611 

詩の歳時記-338 「紅葉」

こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blog
[吸殻山383番地の家に戻る。](#)
[中央1番地に戻る。](#)

- [最新](#) (キャッシュ)
- [最新](#) (キャッシュされない)

2009年10月					
日	月	火	水	木	金
				1	
4	5	6	7	8	
11	12	13	14	15	
18	19	20	21	22	
25	26	27	28	29	
<<		<			

- [最近のコメント](#)

Heavy Hitters

- [Test](#) (20 visits)
- [詩の歳時記-117](#) (19 visits)
- [詩の歳時記-82](#) (19 visits)
- [詩の歳時記-56](#) (19 visits)
- [花守](#) (19 visits)
- [Walking1日目。](#) (18 visits)
- [引用文-23・あきらめ](#)
- [詩の歳時記-274](#) 「あ」 (18 visits)
- [詩の歳時記-253](#) 「柳」 (18 visits)
- [詩の歳時記-123](#) 「桜」 (18 visits)
- [ペルギーノ展](#) (18 visits)
- [かぼちゃな一日](#) (18 visits)

検索



この樹登らば鬼女となるべし夕紅葉 三橋鷹女

紅葉が空を染めているのか
夕焼けが葉を赫く染めたのか
この燃える束の間の時
女が木登りする 鬼になる
なんの不思議があろうか

• [編集](#)



2009/10/26

🕒 01:39:18, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 837 🇯🇵

詩の歳時記一337 「冬薔薇」



教へ得ぬに学び得し子よ冬薔薇よ 香西照雄

- ☒ 全ての語
☐ いずれかの語
☐ フレーズ

[検索](#)

カテゴリ

- [All](#)
- ☐ [百人百詩](#) (100)
- ☐ [詩の歳時記](#) (365)
- ☐ [詩日記](#) (20)
- ☐ [My Haiku](#) (49)
- ☐ [Walking](#) (13)
- ☐ [引用文](#) (31)
- ☐ [日記](#) (163)

[選択](#)

アーカイブ

- [2015年11月](#) (1)
- [2015年7月](#) (1)
- [2015年5月](#) (2)
- [2015年3月](#) (3)
- [2015年2月](#) (2)
- [2015年1月](#) (3)
- [2014年12月](#) (2)
- [2014年11月](#) (2)
- [2014年10月](#) (3)
- [2014年9月](#) (2)
- [2014年8月](#) (2)
- [2014年7月](#) (2)
- [続き...](#)

いろいろ

- [管理](#)
- [プロフィール \(admin\)](#)
- [ログアウト \(admin\)](#)

初冬の校庭に
真白き薔薇が花の重さに耐えている
君はもう知ってしまった
生きることの矛盾や寂しさを
学ぶべきものは何だったのだろうか

[2 コメント](#)・[編集](#)



このブログの配信

- RSS 0.92: [投稿](#), [コメン](#)
- RSS 1.0: [投稿](#), [コメント](#)
- RSS 2.0: [投稿](#), [コメント](#)
- Atom: [投稿](#), [コメント](#)

[What is RSS?](#)

powered by

2009/10/25

🕒 02:36:25, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 545

詩の歳時記一336 「葡萄」



一つぶの葡萄の甘さ死の重さ 稲垣 長

もぎ取られた一房の葡萄は
仮説としての「死」の姿となる
甘い球体ののなかの一粒の種子は
少女の手のひらの上で静か
一本の葡萄の樹の永い物語はそこから始まる

・[編集](#)



2009/10/23

🕒 01:11:57, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 700

詩の歳時記一335 「木の実」



よろこばしきりに落つる木の実かな

富安風生

ころころとおさな児が笑ふ
とことことおさな児が走る
木の耳は空耳
おまへの枝から
落ちる木の実だと気づかない

• [編集](#)



2009/10/20

🕒 21:19:51, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 756 🇯🇵

詩の歳時記—**334** 「赤のまま」



ひと逝きて吾まだ逝かず赤のまま

高田昭子

秋のベンチで
 わたくしたちは熱狂していた
 道ゆくひとたちの
 不幸な物語を作ること
 そしてみずからの結末を知らなかったのだった

[編集](#)


2009/10/18

 16:55:30, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 557

詩の歳時記—333 「秋の宿」



星がおちないおちないとおもう秋の宿

金子兜太

背中に添わぬ宿のしとね
 眠りにおちてゆけない薄闇のなか
 ひとは瞑目しながら考える
 星はおちないのか？
 窓をこする音は星くずではないか？

[編集](#)


2009/10/16

📅 21:59:25, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 608 

詩の歳時記—332 「通草」



一つ採りあとみな高き通草かな

嶋津香雪

蒼空に吊るされて
通草は点々と実る
少年の細い腕では
まだ届かない
その一つ上の通草まで

• [編集](#)



2009/10/14

📅 15:48:32, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 920 

詩の歳時記—331 「秋海棠」



日を畏る秋海棠を愛（を）しむかな

本多俊子

長雨のなかで滴の重さに耐え
輝く秋の陽を畏れるちいさな花

偽りのままに生きるひとよ
わたくしはわたくし
誰の代理ではない花として咲くだけのこと

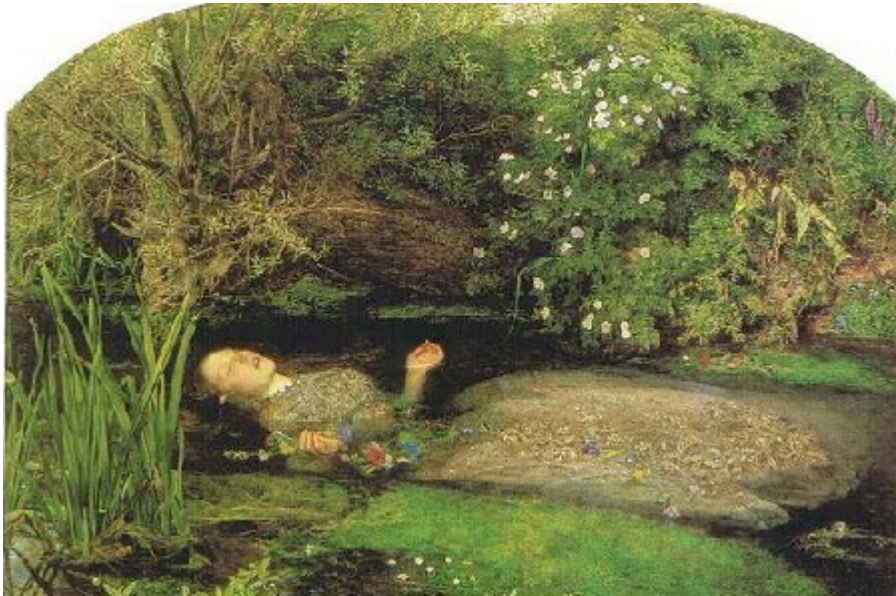
[4 コメント](#)・[編集](#)



2009/10/11

🕒 21:30:09, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 696 🇯🇵

詩の歳時記—330 「菊」



有る程の菊抛げ入れよ棺の中 夏目漱石

かつて漱石はつぶやいた。
ミレイの「オフィーリア」は風流な土左衛門だと……
漱石はこころのなかで叫ぶ。
彼岸へ流す愛しい夫人の棺を
幻の白菊で埋めつくさむと……

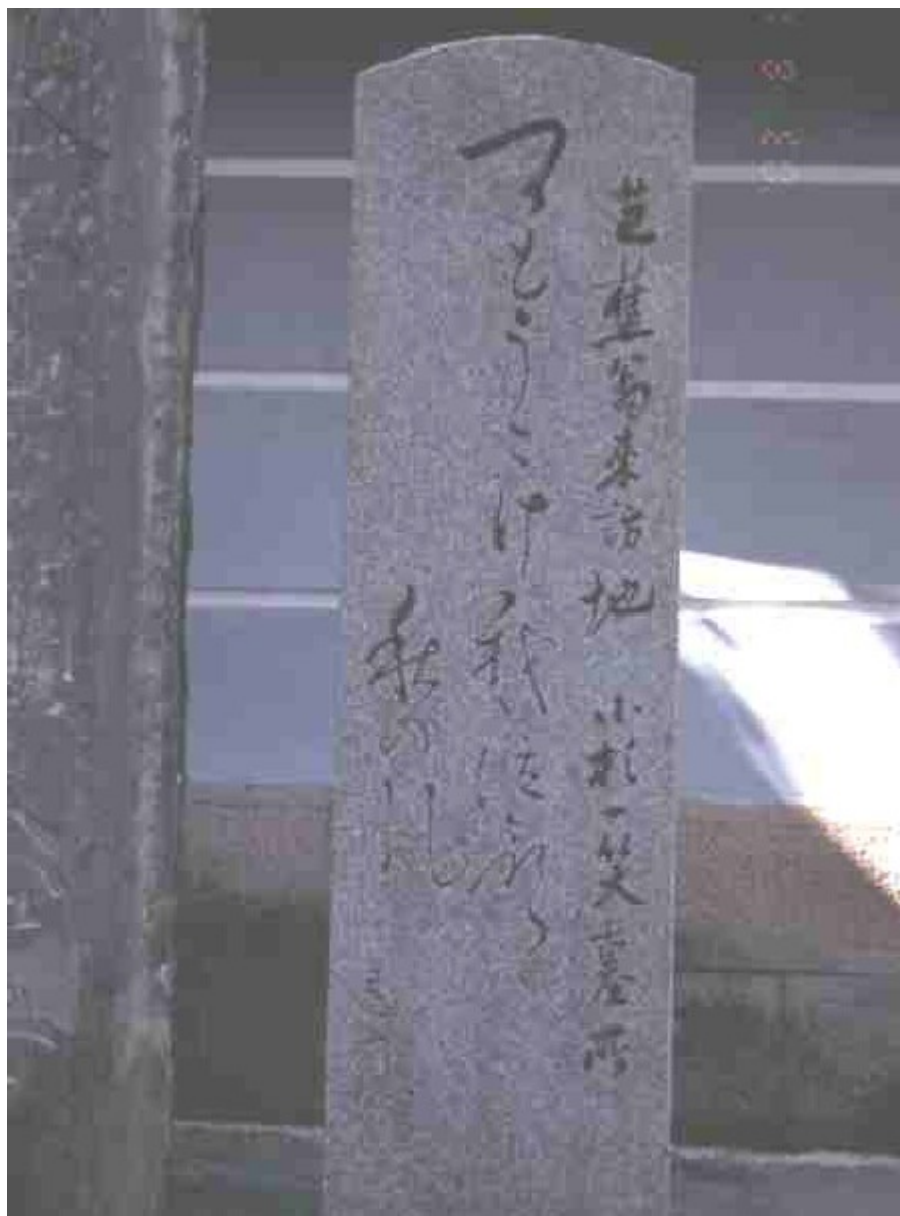
[3 コメント](#)・[編集](#)



2009/10/09

🕒 21:36:39, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 735 

詩の歳時記—329 「秋の風」



塚も動けわが泣く声は秋の風

芭蕉

訃報はあまりにも遅かった
墓石に触れる 摩る
いな 揺るがしたいほどの悲しみ
涙は秋風に渴き
わが想いはあなたに届かないのか。

• [編集](#)



2009/10/05

🕒 15:11:35, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 590 🇯🇵

詩の歳時記ー328 「秋空」



ひと待つ間異物めきもの秋空に

高田昭子

芒の上の空を見た
ベランダから電線の渡る夕空も見た
澁谷駅でひとを待つ間に見た
異物のような高層ビルは空を苦しめている
美術館では絵の具の異国の空を見た

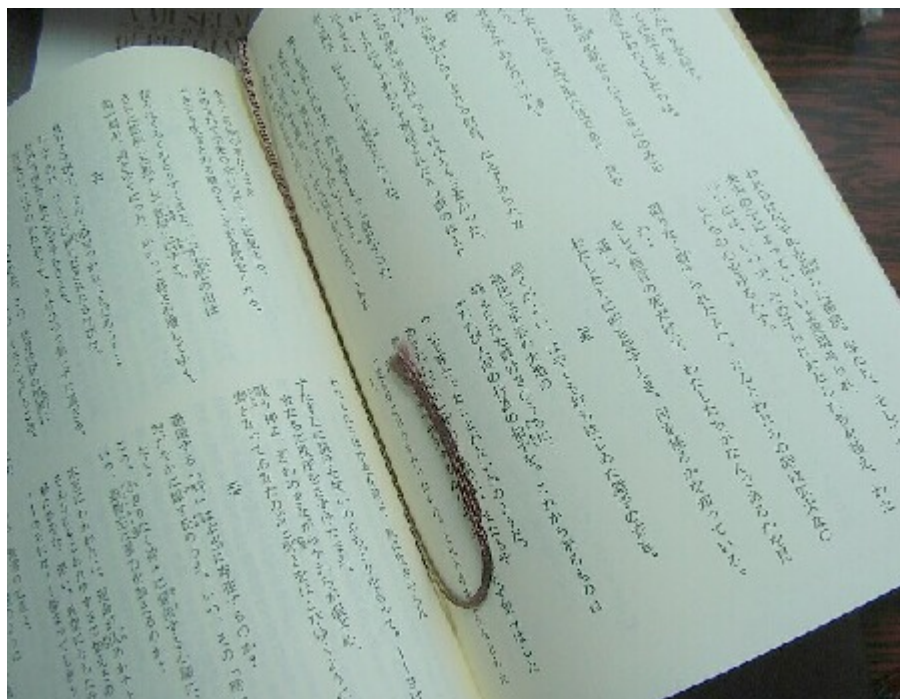
• [編集](#)



2009/10/04

🕒 20:41:53, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 816 

詩の歳時記—327 「虫の闇」



まなうらに文字のひしめく虫の闇

谷口みちる

耳にひしめく虫の声
疲れた目を閉じると
まなうらにひしめく文字
いいえ。音は聴こえません。
満月を遮る雲の音さえも……

• [編集](#)



2009/10/01

📅 23:37:09, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 946 🇯🇵

詩の歳時記—326 「栗」



死の見ゆる日や山中に栗おとす

秋元不死男

死に堕ちるわたくしが見える

言葉を見失いつつ

杣道を辿ってゆけば

栗の落ちる音が響く

そこが行き止まり もう語ることはない

• [編集](#)



Original template design by [François PLANQUE](#).

